

# 年頭挨拶

北海道開発局長

倉内 公嘉



明けましておめでとうございます。謹んで、新年のお喜びを申し上げます。

年頭にあたり、本年の主な取組について申し上げます。

1つ目は、北海道総合開発計画の着実な推進です。

昨年から第8期北海道総合開発計画の中間点検を行っています。年度内を目途とする中間点検最終報告に向けて作業を進めているところであり、その後は、中間点検の結果を踏まえ、計画のキャッチフレーズである「世界の北海道」を目指し、地域の定住環境の確保、国内外からの観光客等を含む人の移動や物流の効率化、農水産業の生産性の向上等の観点から、河川、道路、港湾・空港、農業・水産基盤など、基幹的な社会資本の整備と維持管理をしっかりと行ってまいります。

2つ目は、<sup>きょうじん</sup>強靱で持続可能な国土の形成です。

北海道内では、平成28年8月の連続台風による豪雨、平成30年の北海道胆振東部地震等の大きな災害が発生しました。被災地の早期復興に向けて、引き続き支援を行ってまいります。さらに、道内における今後の大規模災害の発生に備え、防災・減災、国土強靱化に資する社会資本の整備等に重点的に取り組めます。

3つ目は建設業等の働き方改革です。

社会インフラの整備・維持管理や災害対応に重要な役割を担っている建設業等については、生産年齢人口

が減少する中、その担い手の確保・育成に向けて働き方改革が急務です。「新・担い手3法」もしっかりと踏まえ、週休2日確保の促進、i-Construction等による生産性向上など、建設業等の働き方改革に一層取り組んでまいります。

4つ目は、「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」等を通じたアイヌ文化の復興・発展及び国民理解の促進です。

アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターであるウポポイは、令和2年7月12日に開業しました。今後も、多くの方々がウポポイを訪れ、アイヌ文化の素晴らしさを体験し、民族共生の理念に共感していただけるよう、積極的なPRなどに取り組んでまいります。

最後に、上記4点の施策等の推進に当たり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策と社会経済活動の維持・再生の両立という視点をしっかりと踏まえ、早期発注など事業の的確な執行を図ります。また、北海道がその資源や特性を活かし、我が国が直面する課題解決や我が国の発展に貢献できるよう、北海道開発局は引き続き使命を果たしていきます。末筆になりましたが、皆様方のご健勝とご発展をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。